

第二椎の実子供の家 令和7年度 事業報告

昨年度同様、年度途中の転出が多かったが、幸いにも乳児クラスの欠員が生じることはなかった。幼児は5歳児、3歳児で欠員が生じていたが、途中入園もあり、運営に大きく影響を与えることはなかった。

運営面を意識して、職員はSNS（インスタグラム・ライン等）を活用した広報活動に力を入れ、入園前の見学者数は過去最高の年間108組以上という成果をあげた。現行のホームページは、10年前に作った内容をベースにしており、見ている人に知りたい情報が届いてはいないのではないか、ということで、椎の実子供の家・第二椎の実子供の家でプロジェクトチームを立ち上げ、新しいホームページ作りを開始した。令和8年度中には新しいホームページを開設する予定である。

保育に関しては、年々職員の経験数が上がり、静（モンテッソーリ活動や製作活動）と動（体操や運動遊び、散歩等）の活動を意識して、環境づくりに努め、充実した保育を行うことができた。また、保育士と看護師、栄養士（調理員）が連携し、子ども達が衛生的な環境の中で、しっかりと栄養をとり、楽しい保育園生活を送ることができた。

次世代育成では、玉成保育専門学校の実習生の受け入れや、三鷹市立第二中学校の職場体験、東京都社会福祉協議会主催の「高校生向け保育の仕事 職場体験事業」や三鷹市社会福祉協議会主催の「夏！体験ボランティア2025」などで多くの中高生を受け入れることができた。また近隣の大成高校からはボランティア部がたくさん遊びに来てくれたり、合唱部が来園したりするなどし、子ども立向けのプログラムを行ってくれたことが印象的だった。

重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

0歳～2歳児は、モンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。0歳児の散歩は、中央公園までバギーで行き、現地ではそれぞれがでこぼこ道や坂道をたくさん歩く練習をした。1歳児は、近隣を歩く練習をしながら、1～2月頃は長い距離を友達と手をつないで歩けるようになっていった。2歳児は頻回には出かけられなかったが、園周辺や中央公園、ひよこ児童遊園など近場に、友達と手をつないで歩く練習を重ねていった。

3、4、5歳児は、縦割り混合クラスで過ごし、年長児が年下の子をお世話することで、思いやりや憧れの心を育むことができた。散歩も異年齢で出かけるなど、色々な経験を重ねていった。

C組は、年間を通じて就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をき

れいに書く練習や、ひらがなの練習など、就学前の準備を行った。また、グループごとに紙芝居を作るなどの5歳児ならではの遊びを行っていた。

一方で集団の中で気になるお子さんも多く、三鷹市発達支援センターには年間4回、臨床心理士の山崎先生には5回、クラスの様子を観察していただいた。保育者の悩みを聞いていただき、子どもや保護者への関わり方について、ご教示いただいた。

II 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

お便り等を活用し、保育園の活動の目的や成果を知らせ、保育に関する理解や興味を持っていただけるよう努力した。また、ドキュメンテーションは毎日配信し、保護者に好評であった。コードモンでは保育の様子を動画で配信できるため、日々の生活の様子やお散歩の様子、行事などを送信し、こちらもととても喜ばれた。写真では理解できなかったことも、動画を見ることでより深く理解することができた、という声も多く聞かれた。

クラス懇談会や保育参観を行い、保護者との信頼関係が深まるよう努めた。保育参観の際は、給食の試食を提供し、より保育園給食への興味を持ってもらえた。また、保育参観の日には個人面談も行い、お子さんに対する共通理解を図ったり、生活習慣の状況を確認し合ったりすることができた。

III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

次世代を担う保育士の育成として、子ども一人ひとりに今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。各クラスでは、毎月、担任同士で子どもの様子を共有し合い、その内容を、フロア会議や職員会議で全体に周知することに努めた。

関わり方に不安や疑問があるケースでは、巡回指導や、山崎先生に相談し、保育現場で実践するよう心掛けた。

IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。特徴的だったのは、11月中旬から12月上旬にインフルエンザA型が流行し、2～3月はインフルエンザB型が流行したことだった。3月は、卒園式があったため、C組は他のクラスとの接触を避けたところ、全員が卒園式に出席することができた。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた。また、パート職員も含め、全員がエピペンの使い方を練習した。

V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

一時預かりの利用者が、昨年度1,064名だったのに対して、808名と大きく減少した。おそらく、幼稚園児は各園での預かり保育が充実し始めたことと、幼稚園では満3歳のクラスができて始めているため、これらの利用が増えていることが原因だと思われる。その分当園の利用者は満1歳になったばかりの子と、2、3歳児の利用が多かった。年齢が低い分、安全に留意し、丁寧に保育することを心掛けた。

地域子育て家庭に対しては、保育所体験を開催し、マット遊びや砂場で遊ぶ機会をつくった。在園生とも関わることもできた。回数は多くできないものの、希望者が多い場合は、予定人数より多く受け入れるよう努めた。

園と保護者の関係については、子どもを共に育てる者として、基本的に担任が信頼関係を築いていく努力をした。気になるお子さんやご家庭に関しては、園長や主任も面談に入るようにし、悩みや苦労などに寄り添うよう配慮した。

保護者によって運営されている「どんぐりコミュニティ」においては、行事への参加や保護者同士の結びつきが強くなるような活動をしてくれた。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数※	保育士
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名
つくし	2歳児	22名	22名	4名
もも	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	8名	
	5歳児	8名	7名	
さくら	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	8名	
	5歳児	8名	7名	
あんず	3歳児	8名	8名	3名
	4歳児	8名	8名	
	5歳児	8名	7名	
合計		120名	117名	18名
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名

職員数	
園長	1名
主任	2名
保育士	20名
看護師	1名
栄養士	1名
調理員	2名
非常勤職員	21名
嘱託医	1名
49名	

※令和8年3月31日現在